

令和4年度 学校グランドデザイン



さんりき いっしん

チーム 明石小学校 2022 《校訓：三力一心》

①【学校教育目標】

《 心身共に健やかで 明るく かしこく 意志の強い しっかりした 明石っ子 》

②【重点目標】《資質能力》「聴き合い 支え合い 学び合う子の育成」

③【教育目標のめざす学校像と児童像】

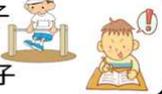
三力 その1【知力】《 進んで学ぶ子 》

- ◎自ら進んで学習に取り組み、基礎学力をきちんと身につける子
- ◎めあてをしっかりと持ち、計画的に自ら解決しようと努力する子
- ◎自ら創造し、筋道を立ててものごとを深く考え発表する子



三力 その2【意志力】《 ねばり強い子 》

- ◎常に自分を見つめ、困難に屈せず、ねばり強くやり抜く子
- ◎積極的に課題に取り組み、最後まで責任を果たす子
- ◎目標を持って何ごとにも意欲的に挑戦する根性のある子



三力 その3【体力】《 元気な子 》

- ◎生命の尊さを理解し、健康・安全に気をつけ、向上心のある子
- ◎普段から身体をきたえ、体力の維持管理に努める子
- ◎きまりを守り、礼儀正しくあいさつができる子



一心 その1【心情】《 思いやりのある子 》

- ◎自他ともに大切にし、思いやりのある心をもって進んで実践できる子
- ◎相手の気持ちや立場を考え、協力し助け合うことのできる子
- ◎郷土の自然や文化を愛し、美しいものに感動する心の持てる子



⑤【何ができるようになるか】

学校教育の基本

- ①各教科・領域において、実生活に必要な知識・技能を進んで習得する力。
- ②自らの夢や目標の実現に向けて、最後まで諦めずに粘り強くやりぬく力。
- ③自他の生命の尊さを理解し、自分の命を守るための体力維持管理ができる力。
- ④相手を思いやる温かい言葉で、自分の考えを伝えあうコミュニケーション能力。

④【何が身に付いたか】

学習評価を通じた学習指導の改善

- ①学校での学びと実生活との繋がりを理解し、必要な知識・技能を身につける。
- ②夢を持ち、具体目標の実現に向けて、進んで努力することができる。
- ③礼儀正しい挨拶ができ、きまりを守って安心安全に気をつけることができる。
- ④自分の考えを持って、相手の意見に耳を傾け、よりよい解決法を見つけられる。

⑧【子どもの発達をどのように支援するか】

配慮を必要とする子供への指導

I【チーム対応】

「明石っ子は、学校・保護者・地域で育てる！」

- ・教職員、相談員、SC等と連携し、保護者・地域の声に耳を傾け一人一人の教育的ニーズを把握して支援する。

II【個に応じたきめ細やかな支援】

- ・調査物分析による個に応じた細やかな支援充実を図る。
- ・キャリアパスポート有効活用で、自己肯定感を高める。
- ・個別指導計画をもとに児童への細やかな対応を行う。

学校の実態

- 保護者の教職員評価が高く信頼を得られている。
- 向上意欲旺盛で機動力に溢れた教職員である。
- △複式学級という特殊形態授業改善に向けたマネジメントサイクルの見直しが必要である。
- △学校・保護者・地域を繋ぐ各種行事や諸活動における地域人材活用について見直しが必要である。
- △個別ファイル共有による全職員対応体制の強化。
- ▲全教職員の通級指導に関する共通理解の徹底。

児童の実態

- 明るく元気で素直な児童が多い。
- 低学年の面倒をみる、高学年を敬うという関係が確立されつつある。
- △少人数ゆえの学級内役割の固定化がみられる。
- △校内での挨拶は上手だが、地域の中での積極的挨拶までには至っていない。
- △家庭学習習慣に温度差があり、学力面での個人差が大きい。
- △遅刻、事故欠の多さ、不登校等に課題がある。
- ▲通級指導児童への支援体制構築

⑥【何を学ぶか】

教育課程の編成

- ①教育活動全体を通じた「聴いて 考えて つなげる」の実施
- ②言語活動の育成
- ③6年間を見通した複式学級における発達段階を考慮した授業づくり充実
- ④家庭と連携した学習習慣の確立

⑦【どのように学ぶか】

教育課程の実態

- ①「聴き合う関係」を基盤とした「学びの共同体づくり」を目指した授業改善
- ②キャリアパスポート導入や自分の考えの足跡がわかる「ノートづくり」
- ③「単元を通してつけたい力」の明確化、学年別ガイド学習の充実
- ④家庭学習互見会や学校・学級便り等による情報共有による奨励

⑨【実施するために何が必要か】

指導体制の充実、家庭・地域との連携・協働

- 学びの質を高める授業改善・学校改善に向けた校内研修の充実
- いじめ、不登校をうまない学校、学級経営
- 行政との連携を密にした学習環境の充実
- 教育相談コーディネーターを核としたSC SSW、支援チーム等との連携
- 迅速かつ適切な初期対応及びチーム対応
- 子供と向き合う時間の確保
- 学びの連続性を意識した幼小中の連携
- 教諭・学校職員の相互協力によるワークライフバランスを重視した働き方改革
- 家庭、地域との情報共有及び連携協働

安心・安全を守る

- 教育活動全体における万全の安全対策
- 「自分の命は自分で守る」児童の育成（安全教育・防災教育）
- 認め合い、安心して過ごせる教室、学校（人材(財)育成）

開かれた学校づくり

- 地域の人材、教材を生かした学校づくり
- 学校評価公開・公約による情報の共有できる環境づくり
- 学校便り・学級便り等による積極的な情報発信